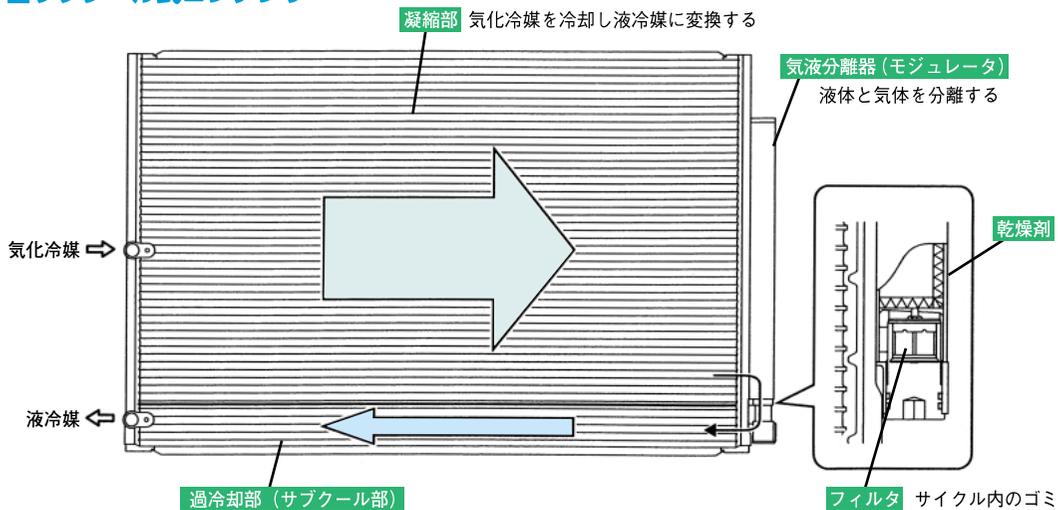


冷媒を補充する時は要注意！サイトグラスの泡が消えてもプラスアルファを!!

■サブクール式コンデンサー

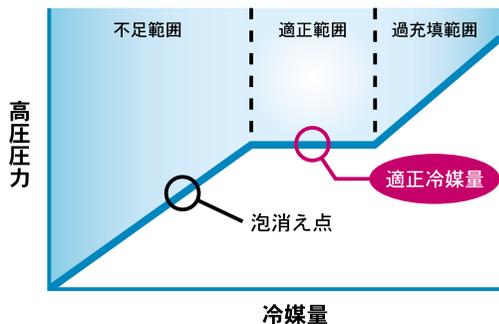


数年前に登場した「サブクール式コンデンサー」は冷房性能の高効率化に有効だとして、現在では乗用車を中心に多くのクルマが採用している。

その特徴は、ひとつのコンデンサーを「凝縮部」と「過冷却部」とに分けて、その間に「気液分離器 (モジュレータ)」を配置することにより、いちど分離した液冷媒をさらに冷やすことで液冷媒自体がもつエネルギー (エンタルピ) を増大させた点にあり、これによって冷凍サイクル効率を向上させ、従来より省動力化・省冷媒化・軽量化などを実現した。

フロンガス充填時は要注意

サブクール式コンデンサーは、フロンガスを充填する際、特に注意が必要だ。従来のレシーバサイクルでは、レシーバに装備された「サイトグラス」か



ら見えるガスの泡が消えた時点が冷房能力安定域の入口にあったが、サブクールサイクルでは泡消え点が冷房能力安定域の手前にあり、従来どおりサイトグラスから見える泡が消えた時点で充填をやめると「充填不足」になってしまうのだ。

トヨタの「プレミオ」を例にして説明すると、フロンガスの充填量の基準値は 520 ± 30 gとなっており、泡が消えた時点から約100 g補充しないと適正量に達しないのだ (グラフ参照)。